

三菱電機 ビル空調
マルチエアコン
アクティブフィルター取付部品
形名
PAC-KP57, 58FAC

取付説明書 (販売店・工事店様用)

もくじ	ページ
安全のために必ず守ること	2
1. 使用部品	6
1-1. 適用機種	6
1-2. 同梱部品	6
1-3. アクティブフィルター本体側構成	7
1-4. 製品運搬と開梱時のお願い	9
2. 使用箇所 (取付作業の概要)	10
2-1. アクティブフィルターの取付位置	10
3. 取付け場所の選定	11
4. 取付け・電気工事	12
4-1. 準備	13
4-2. ねじ締め時のお願い事項	13
4-3. 取付け・配線方法	14
4-3-1. コネクタ接続について	19
4-3-2. 設定について	20
4-3-3. 電気配線図	21
5. 取付作業後の確認	22
5-1. 取付作業のチェックリスト	22
6. 試運転	23
7. アクティブフィルターの取外し方法	24
8. お客様への説明	25

この製品の性能・機能を十分に発揮させ、また安全を確保するために、正しい取付作業が必要です。取付作業の前に、この説明書を必ずお読みください。

- ・「取付説明書」は大切に保管してください。
- ・お客様ご自身では、取付けないでください。(安全や機能の確保ができません。)
- ・この製品は、日本国内用に設計されていますので、国外では使用できません。また、アフターサービスもできません。

This appliance is designed for use in Japan only and the contents in this document cannot be applied in any other country. No servicing is available outside of Japan.

アクティブフィルターとしては、本取付部品PAC-KP57, 58FAC以外に、アクティブフィルター本体であるPAC-KP51AACが必要です。

本取付部品の適用機種については、本書内の「1-1. 適用機種」の項を参照してください。

安全のために必ず守ること

- ◆この「安全のために必ず守ること」をよくお読みのうえ、取り付けてください。
- ◆ここに記載した注意事項は、安全に関する重要な内容です。必ずお守りください。



警告

取扱いを誤った場合、使用者が死亡または重傷を負うおそれのあるもの



注意

取扱いを誤った場合、使用者が軽傷を負う、または物的損害が発生するおそれのあるもの

- ◆図記号の意味は次のとおりです。



(一般禁止)



(接触禁止)



(水ぬれ禁止)



(ぬれ手禁止)



(一般指示)



(アース線を必ず接続せよ)

- ◆お読みになったあとは、お使いになる方に必ず本書をお渡しく下さい。
- ◆お使いになる方は、本書をいつでも見られるところに大切に保管してください。移設・修理の場合、工事をされる方にお渡しく下さい。また、お使いになる方が代わる場合、新しくお使いになる方にお渡しく下さい。



警告

電気配線工事は「第一種電気工事士」の資格を保有する者が行うこと。

一般事項



警告

以下の特殊な環境では使用しないこと。

- ◆油・蒸気・有機溶剤・腐食ガス（アンモニア・硫黄化合物・酸など）の多いところ

- ◆酸性やアルカリ性の溶液・特殊なスプレーなどを頻繁に使うところ

- ◆性能低下・腐食による感電・故障・発煙・火災のおそれあり。



使用禁止

改造はしないこと。

- ◆けが・感電・火災のおそれあり。



禁止

安全装置・保護装置の改造や設定変更をしないこと。

- ◆保護装置を改造して運転を行った場合、破裂・発火・火災・爆発のおそれあり。
- ◆設定を変更して使用した場合、破裂・発火・火災・爆発のおそれあり。
- ◆当社指定品以外のものを使用した場合、破裂・発火・火災・爆発のおそれあり。



変更禁止

取付作業・点検・修理をする周囲に子どもを近づけないこと。

- ◆工具などが落下すると、けがのおそれあり。



禁止

隙間・穴に金属類を入れないこと。

- ◆感電・火災のおそれあり。



禁止

ヒューズ交換時は、針金・銅線を使用しないこと。指定容量のヒューズを使用すること。

- ◆ 発火・火災のおそれあり。



禁止

運転中および運転停止直後の電気部品に素手で触れないこと。

- ◆ 火傷・感電のおそれあり。



接触禁止

電気部品に水をかけないこと。

- ◆ ショート・漏電・感電・故障・発煙・発火・火災のおそれあり。



水ぬれ禁止

ぬれた手で電気部品に触れたり、スイッチを操作したりしないこと。

- ◆ 感電・故障・発煙・発火・火災のおそれあり。



ぬれ手禁止

ユニットのカバーを取り付けること。

- ◆ ほこり・水が入ると、感電・発煙・火災のおそれあり。



指示を
実行

ユニットを病院など医療機関に据付ける場合はノイズ対策を行うこと。

- ◆ ノイズが医療機器に悪影響を与え、医療行為を妨げるおそれあり。



指示を
実行

注意

ユニットのカバーを外したまま運転しないこと。

- ◆ 回転機器に触れると、巻込まれてけがのおそれあり。
- ◆ 高電圧部に触れると、感電のおそれあり。
- ◆ 高温部に触れると、火傷のおそれあり。



使用禁止

部品端面・ファンや熱交換器のフィン表面を素手で触れないこと。

- ◆ けがのおそれあり。



接触禁止

保護具を身に付けて操作すること。

- ◆ 各基板の端子には電圧がかかっている。触れると感電のおそれあり。
- ◆ 主電源を切っても数分間は充電された電気が残っている。触れると感電のおそれあり。



指示を
実行

電気部品を触る場合は、保護具を身に付けること。

- ◆ 高温部に触れると、火傷のおそれあり。
- ◆ 高電圧部に触れると、感電のおそれあり。



指示を
実行

作業する場合は保護具を身に付けること。

- ◆ けがのおそれあり。



指示を
実行

運搬・据付工事をするときに

注意

20kg 以上の製品の運搬は、1 人でしないこと。

- ◆ けがのおそれあり。



禁止

取付作業をするときに

警告

製品を可燃物に取り付けないこと。

- ◆ 引火・火災のおそれあり。



禁止

梱包材は破棄すること。

- ◆ 窒息事故のおそれあり。



指示を
実行

取付作業は、販売店または専門の工
店が実施すること。

- ◆ 間違った取り付けは、事故のおそれあり。
- ◆ お客様ご自身での取り付けは、事故のおそれあり。



指示を
実行

強風・地震に備え、取付作業を行うこ
と。

- ◆ 不備がある場合、部品が落下し、けがのおそれあり。



指示を
実行

電気工事をするときに

警告

電源配線は信号端子台に接続しないこ
と。

- ◆ 機器損傷・故障・発煙・火災のおそれあり。



接続禁止

配線が冷媒配管・部品端面に触れない
こと。

- ◆ 配線が接触した場合、漏電・断線・発煙・発火・火災のおそれあり。



禁止

配線に外力や張力が伝わらないように
すること。

- ◆ 伝わった場合、発熱・断線・発煙・発火・火災のおそれあり。



指示を
実行

端子接続部に配線の外力や張力が伝わ
らないように固定すること。

- ◆ 発熱・断線・発煙・発火・火災のおそれあり。



指示を
実行

配線の接続はねじの緩みのないように
確実にすること。

- ◆ ねじ緩み・接触不良により発煙・発火・火災のおそれあり。



指示を
実行

電気工事をする前に、主電源を切るこ
と。

- ◆ けが・感電のおそれあり。



指示を
実行

電気工事は、第一種電気工事士の資格
所持者が以下に従って行うこと。

- ◆ 電気設備に関する技術基準
- ◆ 内線規程
- ◆ 取付説明書



指示を
実行

- ◆ 施工不備があると、感電・故障・発煙・発火・火災のおそれあり。

電気配線には所定の配線を用い専用回
路を使用すること。

- ◆ 電源回路容量不足や施工不備があると、感電・故障・発煙・発火・火災のおそれあり。



指示を
実行

電源には漏電遮断器を取り付けること。

- ◆ 漏電遮断器はユニット1台につき1個設置すること。
- ◆ 取り付けない場合、感電・発煙・発火・火災のおそれあり。



指示を
実行

以下の正しい容量の遮断器を使用すること。

- ◆ 漏電遮断器
- ◆ ヒューズ（開閉器＋B種ヒューズ）
- ◆ 配線用遮断器

◆ 大きな容量の遮断器を使用した場合、感電・故障・発煙・発火・火災のおそれあり。



指示を
実行

工事完了後、絶縁抵抗を測定し1MΩ以上あることを確認すること。

- ◆ 故障・漏電・火災のおそれあり。



指示を
実行

電源配線には、電流容量などに適合した規格品の配線を使用すること。

- ◆ 漏電・発熱・発煙・発火・火災のおそれあり。



指示を
実行

D種接地（アース）工事は第一種電気工事士の資格のある電気工事業者が行うこと。アース線は、ガス管・水道管・避雷針・電話のアース線に接続しないこと。

- ◆ 感電・ノイズによる誤動作・発煙・発火・火災・爆発のおそれあり。



アース
接続

移設・修理をするときに

警告

分解・改造はしないこと。移設・修理は販売店または専門業者に依頼すること。

- ◆ けが・感電・火災のおそれあり。



禁止

基板に手・工具で触れたり、ほこりを付着させたりしないこと。

- ◆ ショート・感電・故障・火災のおそれあり。



接触禁止

雨天の場合、サービスはしないこと。

- ◆ ショート・漏電・感電・故障・発煙・発火・火災のおそれあり。



水ぬれ
禁止

修理をした場合、部品を元通り取り付けること。

- ◆ 不備がある場合、けが・感電・火災のおそれあり。

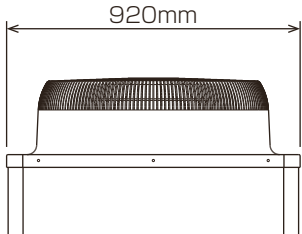
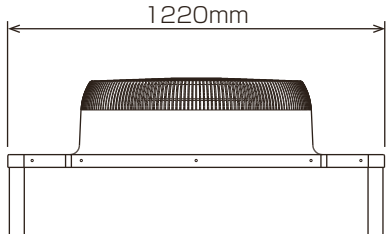


指示を
実行

1. 使用部品

1-1. 適用機種

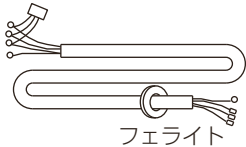
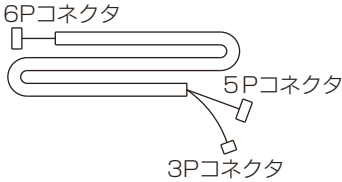
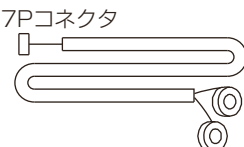
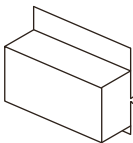
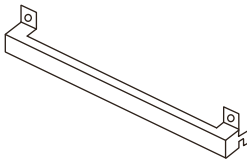




本取付部品はアクティブフィルタ本体 PAC-KP51AAC を下記の室外ユニットに組込む際に使用します。ただし、PQHY 形、PQRY 形は除く。





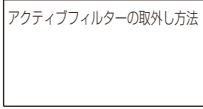
取付部品形名	PAC-KP57FAC	PAC-KP58FAC
適用室外ユニットの形状 (ユニット横幅の違い)		

※ 適用室外ユニット形名詳細については、製品カタログを確認していただくか、本書巻末のお客様相談窓口にお問い合わせください。

1-2. 同梱部品

本取付部品は以下の部品で構成されています。作業前に確認してください。

No.	D-1	D-2	D-3
名称	AF 電源配線	中継信号配線	ACCT 配線
形状			
個数	1	1	1
No.	D-4	D-5	D-6
名称	前パネル (上) ※1	取付金具 ※1	取付ねじ
形状			
個数	1	2	10
No.	D-7	D-8	D-9
名称	ワイヤストラップ (小)	ワイヤストラップ (大)	ケーブルクリップ
形状			
個数	2	1	1

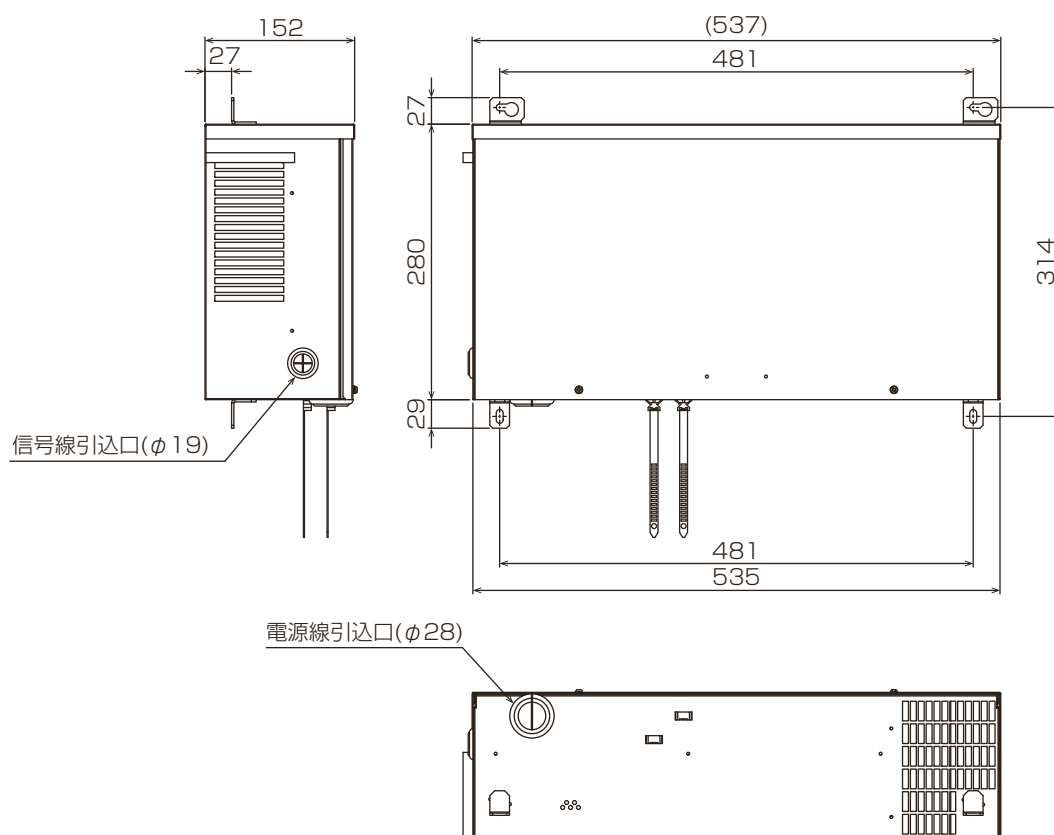
No.	D-10	D-11	D-12
名称	電気配線図銘板	製品ラベル (リブレース)	製品ラベル (CITY MULTI)
形状			
個数	1	1	1
No.	D-13	D-14	
名称	製品ラベル (設備 PAC)	注意銘板	
形状			
個数	1	1	

※1 PAC-KP57FACとPAC-KP58FACとで大きさが異なります。

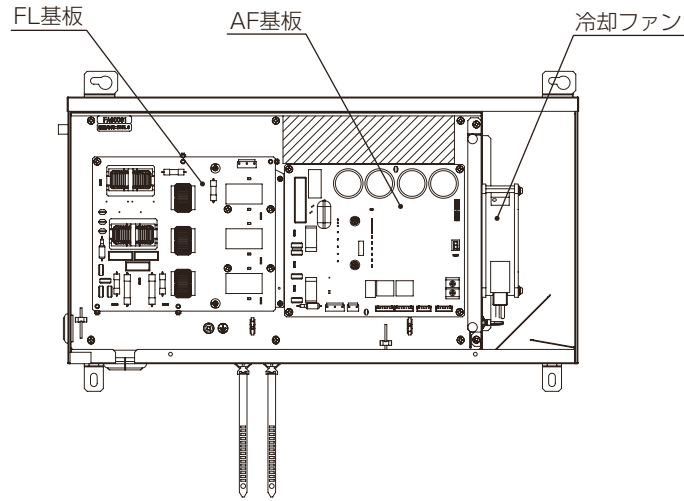
1-3. アクティブフィルター本体側構成

[1] 外形図 (PAC-KP51AAC)

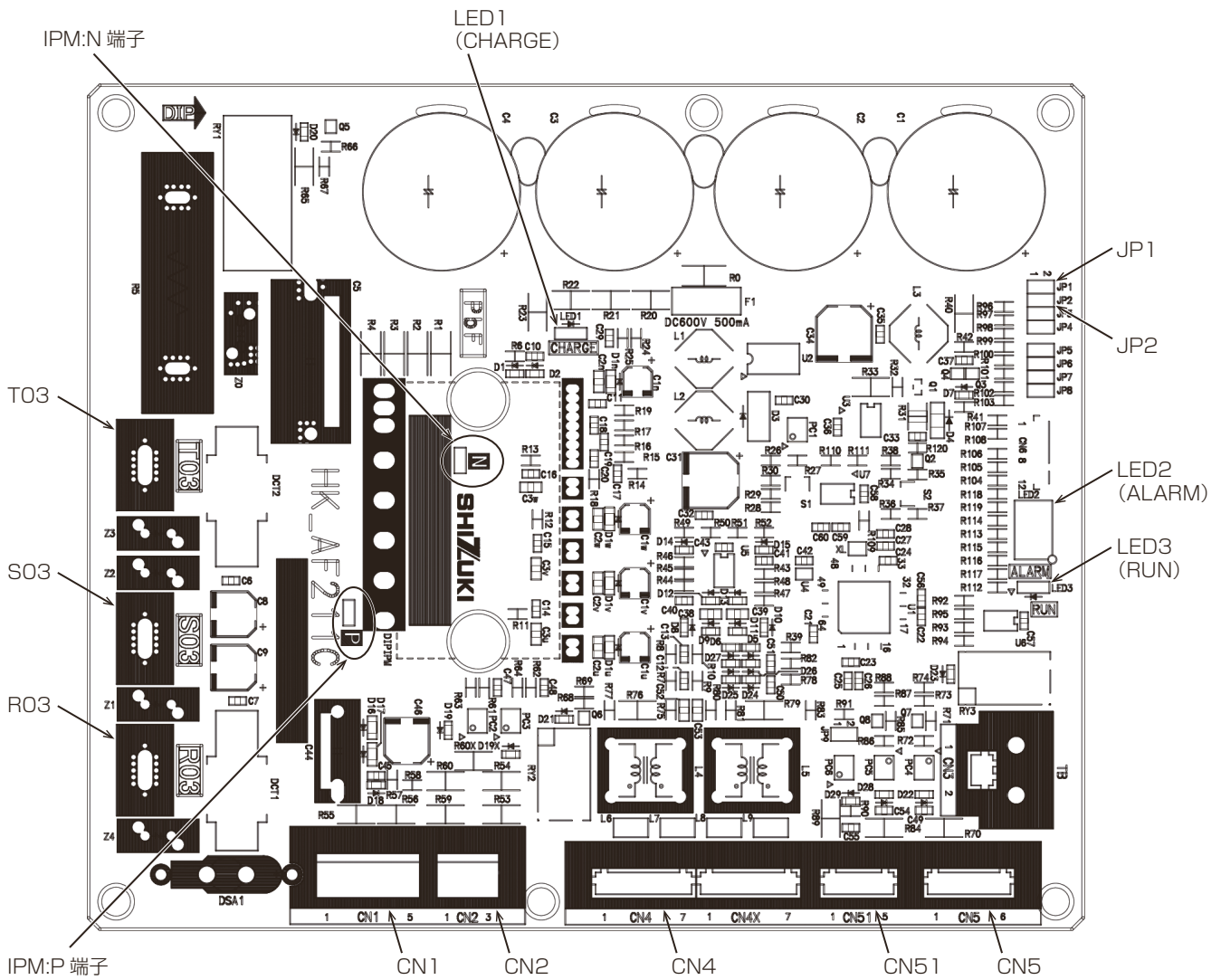
(単位 : mm)



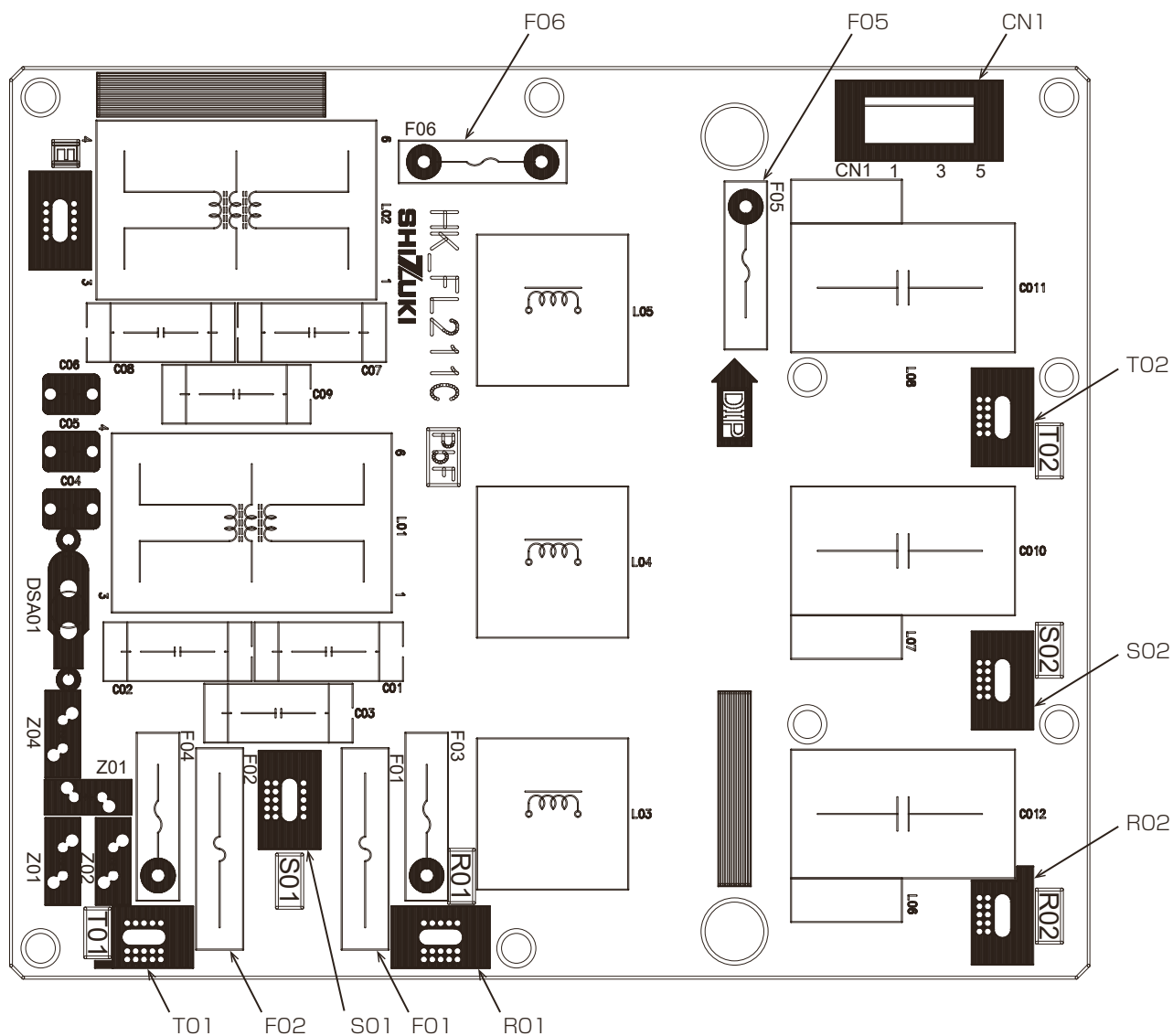
[2] 内部構成図



[3] AF基板



[4] FL基板

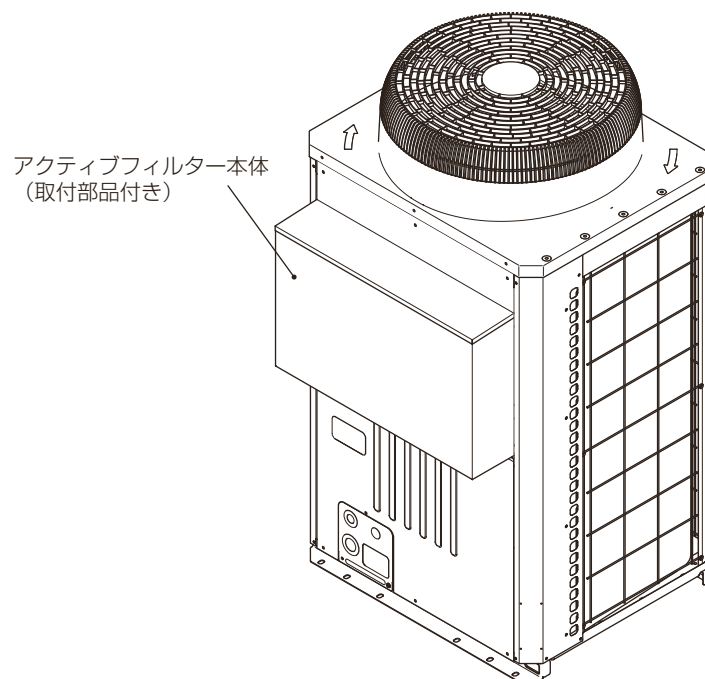


1-4. 製品運搬と開梱時のお願い

本取付部品の同梱部品に不足がないか、取り出して確認してください。

2. 使用箇所 (取付作業の概要)

2-1. アクティブフィルターの取付位置



3. 取付け場所の選定

本取付部品で、アクティブフィルター本体 (PAC-KP51AAC) を適用している室外ユニットに取り付けてください。

4. 取付け・電気工事

取付作業全般に対して守っていただきたいこと。

⚠ 注意

部品端面・ファンや熱交換器のフィン表面を素手で触れないこと。

- ◆ けがのおそれあり。



接触禁止

20kg 以上の製品の運搬は、1 人でしないこと。

- ◆ けがのおそれあり。



禁止

電気工事全般に対して守っていただきたいこと。

⚠ 警告

電源配線は信号端子台に接続しないこと。

- ◆ 機器損傷・故障・発煙・火災のおそれあり。



接続禁止

配線に外力や張力が伝わらないようにすること。

- ◆ 伝わった場合、発熱・断線・発煙・発火・火災のおそれあり。



指示を
実行

端子接続部に配線の外力や張力が伝わらないように固定すること。

- ◆ 発熱・断線・発煙・発火・火災のおそれあり。



指示を
実行

配線の接続はねじの緩みのないように確実にすること。

- ◆ ねじ緩み・接触不良により発煙・発火・火災のおそれあり。



指示を
実行

電気工事をする前に、主電源を切ること。

- ◆ けが・感電のおそれあり。



指示を
実行

電気工事は、第一種電気工事士の資格所持者が以下に従って行うこと。

- ◆ 電気設備に関する技術基準
- ◆ 内線規程
- ◆ 取付説明書



指示を
実行

- ◆ 施工不備があると、感電・故障・発煙・発火・火災のおそれあり。

電気配線には所定の配線を用い専用回路を使用すること。

- ◆ 電源回路容量不足や施工不備があると、感電・故障・発煙・発火・火災のおそれあり。



指示を
実行

工事完了後、絶縁抵抗を測定し 1MΩ 以上あることを確認すること。

- ◆ 故障・漏電・火災のおそれあり。



指示を
実行

D 種接地（アース）工事は第一種電気工事士の資格のある電気工事業者が行うこと。アース線は、ガス管・水道管・避雷針・電話のアース線に接続しないこと。

- ◆ 感電・ノイズによる誤動作・発煙・発火・火災・爆発のおそれあり。



アース
接続

雨天の場合、サービスはしないこと。

- ◆ ショート・漏電・感電・故障・発煙・発火・火災のおそれあり。



水ぬれ
禁止

お願い

- 適用機種への接続以外の用途には使用しないでください。
- 電気品箱は、サービス時に取り外すことがありますので、配線は取り外すための余裕を設けてください。
- アクティブフィルター取付後、室外ユニットを移送することは避けてください。
- 素手で電気部品、基板を触らないでください。静電気で破損するおそれがあります。

4-1. 準備

取付作業を行う前に以下の工具を準備してください。

- ・ ドライバ(+)

4-2. ねじ締め時のお願い事項

[1] ねじ締めトルクについて

- ・ AF 電源配線接続および ACCT 取付けの際、室外ユニット制御箱内のコイルを外すために電源端子台 (TB1) およびノイズフィルター基板端子台 (TB21 ~ TB23) のねじを外します。外したねじは下記トルクで締めてください。

端子部	ねじサイズ	ねじ締めトルク
電源端子台 (TB1)	M8 ねじ	6 ~ 15N・m
ノイズフィルター基板端子台 (TB21 ~ TB23)	M6 ねじ	2.5 ~ 2.9N・m

また、以下の方法でもねじが締まっていることを確認してください。

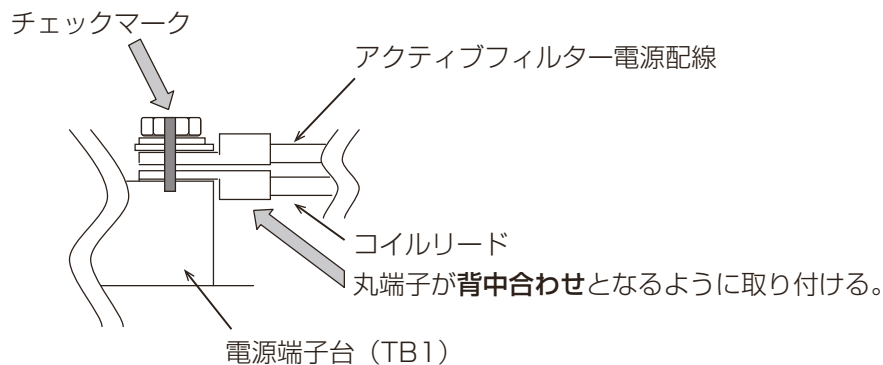
- ・ スプリングワッシャが平行状態になっていることを確認する。
- ・ ねじが咬み込んだ場合は、規定トルクでねじ締めをしただけでは正常判断できません。



- ・ 配線がねじ端子部で動かないことを確認する。

[2] その他

- ・ 斜め締めによりねじ山をつぶさないでください。
斜め締め防止のため、丸端子が背中合わせとなるように取り付けてください。
- ・ ねじ締め後に油性マジックでねじ頭、ワッシャ、端子にチェックマークを入れてください。



ねじの緩みがないよう上記ねじ締め確認を実施してください。

以下はねじ締め確認を実施したことを確認する方法の一例です。

例)

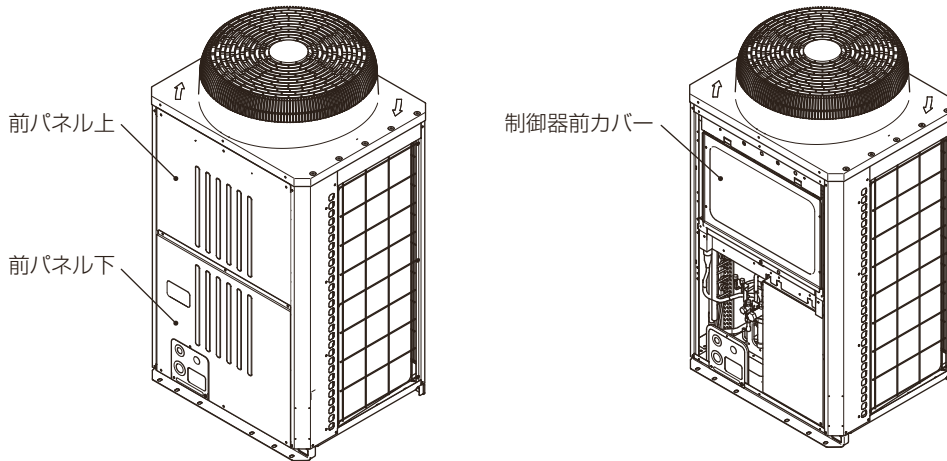
アクティブフィルターねじ締め確認実施済	
実施日	〇〇/〇/〇
実施社	〇〇〇〇〇〇

←ユニット内(制御箱前パネル、アクティブフィルター前パネルなど)に表示

4-3. 取付け・配線方法

取付場所に取り付けられる状態になりましたら、取付作業を行ってください。

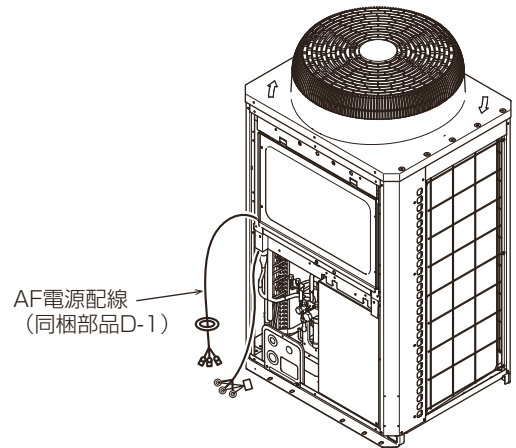
[1] 前パネル(上)、前パネル(下)およびインバータ制御器の前カバーを取り外す



[2] AF電源配線の接続準備を行う

手順

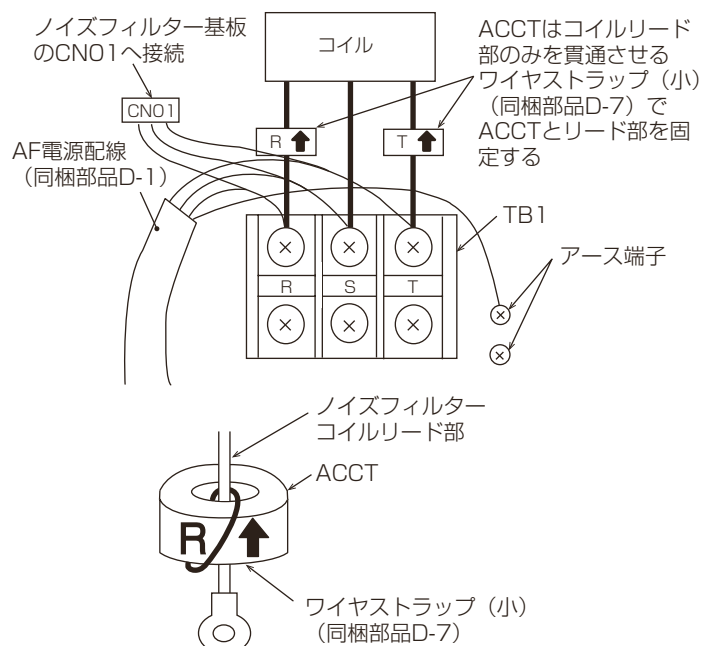
- 右図に示すように、AF電源配線(同梱部品D-1)をフェライトコアが上になるように制御器横の穴に通し、接続準備を行う。
 - フェライトコアは衝撃に弱いため、丁寧に取り扱いください。



[3] AF電源配線、中継信号配線およびACCT配線をインバータ制御器側に接続する

手順

- 端子台TB1とノイズフィルター基板のCN01を接続している配線を取り外す。(取り外した配線は不要となります)
- 右図および以下の項目に示すとおりACCT配線(同梱部品D-3)を取り付ける。
 - 電源端子台と相(R, T)を一致させる
 - 方向を矢印↑向き(ACCT貼付けラベルを確認)となるようにする
 - ノイズフィルターのコイルリード部のみ貫通させる(「4-3-3. 電気配線図(21ページ)」も参考としてください)
 - ワイヤストラップ(小)(同梱部品D-7)で貫通させたコイルリード部と固定する。(右図参照)

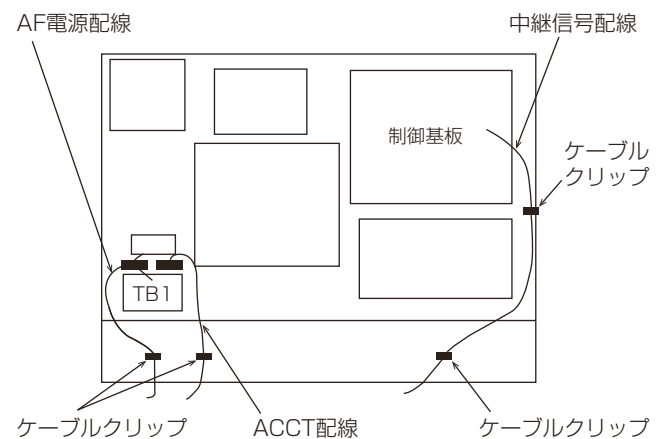


3. 手順2.の右図および以下の項目に示すとおりAF電源配線（同梱部品D-1）を取り付ける。
- AF電源配線はコイル端子部と端子台TB1に共締めする
 - AF電源配線内のアース線（緑）は端子台TB1右上側のアース端子に接続する
 - AF電源配線の端子部から分岐しているコネクタ付きの配線を、ノイズフィルター基板のCNO1へ接続する
4. 中継信号配線（同梱部品D-2）を制御基板のコネクタ（CN51（5P）、CN3DまたはCN3S（3P））に接続する。（「4-3-1. コネクタ接続について（19ページ）」参照）
5. インバータ制御器内制御基板のSW3-8またはSW6-8をONに設定する。（基板によって異なります。詳細は「4-3-2. 設定について（20ページ）」を参照してください）
6. 右図のとおり、AF電源配線、ACCT配線、中継信号配線を引き回し、ケーブルクリップで固定する。

お願い

- 各配線に張力がかからないようにしてください。
- 高温となる部分に接触しないように引き回してください。
- AF電源配線はユニット本体の電源配線とともにケーブルクリップで結束しますが、結束できない場合はワイヤストラップ（大）（同梱部品D-8）で適宜結束してください。
- 板金のエッジに触れないように作業してください。
- 再度、以下の項目を確認してください。
 - AF電源配線の取付相に誤りがない
 - ACCTの取付相、方向に誤りがない
 - ACCTにガタツキがない
 - ノイズフィルター基板のCNO1に配線を接続している

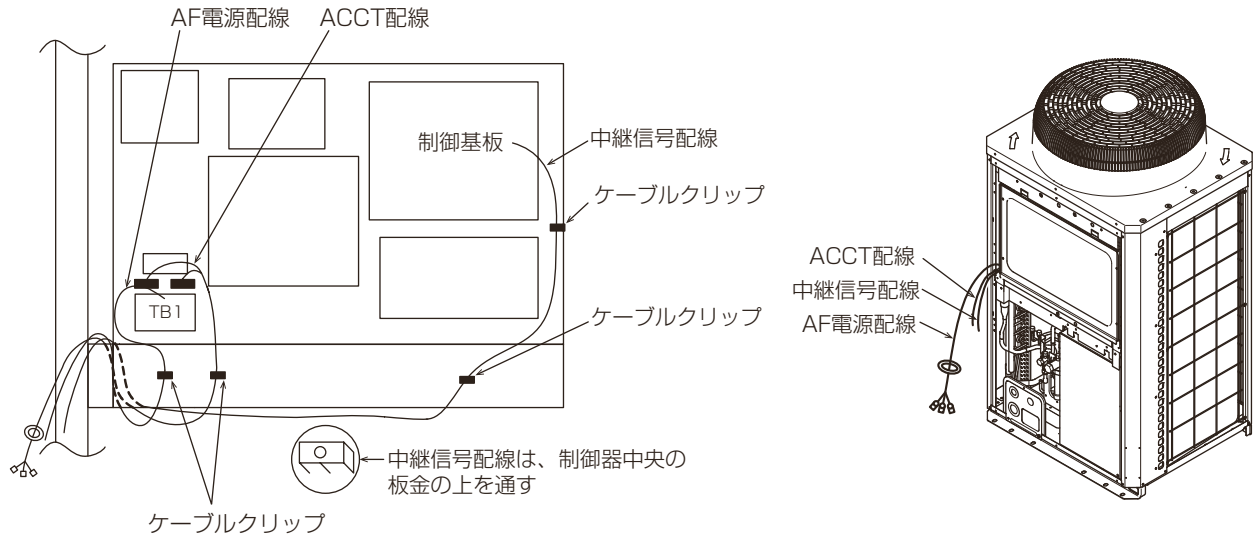
以上の項目に不備があると、機器損傷、電源設備の故障の原因になります。



[4] AF電源配線、中継信号配線およびACCT配線を引き回し、制御器前カバーを取り付ける

手順

1. 下図のように、中継信号配線・ACCT配線を制御器下側から裏側を通して、制御器左側とユニットの柱との隙間から配線を引き出す。

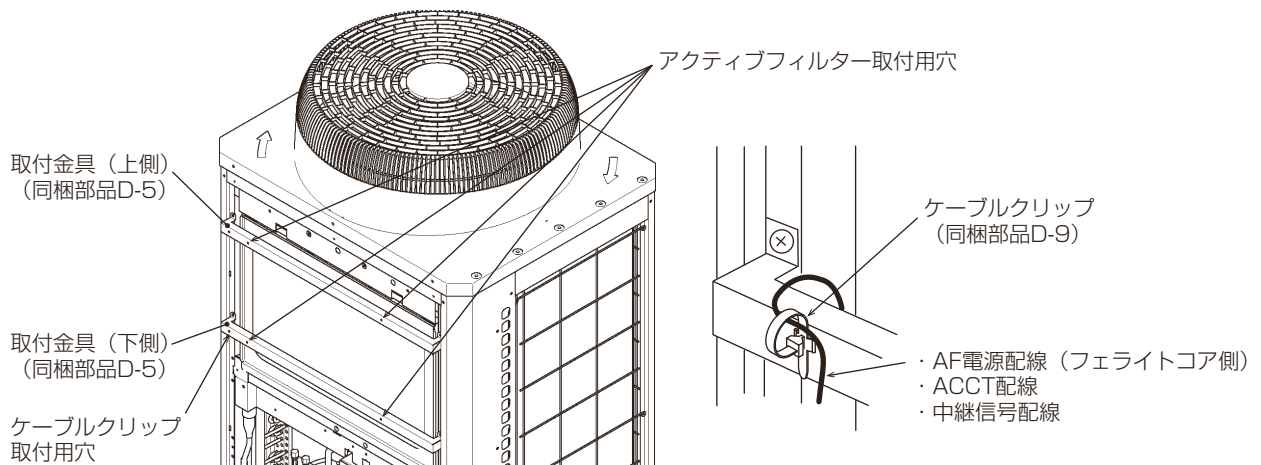


2. インバータ制御器の前パネルを取り付ける（配線の挟み込みがないようにする）。

[5] 取付金具をユニットへ取り付ける（取付金具上側と下側は同一部品）

手順

1. 取付金具（上側）のツメをユニットの角穴に引っ掛け、取付ねじ（同梱部品D-6）で固定する（2か所）。
2. 取付金具（上側）のアクティブフィルター取付用穴（2か所）に取付ねじ（同梱部品D-6）を仮止めする。
3. 取付金具（下側）のツメをユニットの角穴に引っ掛け、取付ねじ（同梱部品D-6）で固定する（2か所）。
 - ・このとき [4] の **手順 1.** で引き出した AF 電源配線（フェライトコア側）、ACCT 配線、中継信号配線が右下図に示すとおり金具の上側となるようにしてください。
4. 取付金具（下側）にケーブルクリップ（同梱部品D-9）を取り付け、AF電源配線（フェライトコア側）、ACCT配線、中継信号配線を仮結束する。（右下図参照）
 - ・このとき板金エッジや熱交高温部に配線が接触しないようにしてください。

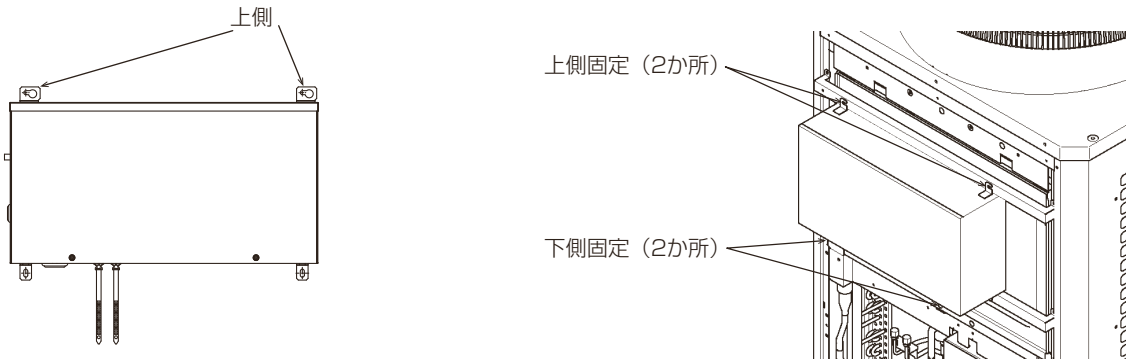


[6] アクティブフィルター本体をユニットへ取り付ける

アクティブフィルターは固定金具が左下図のようになっている方が上側となります。

手順

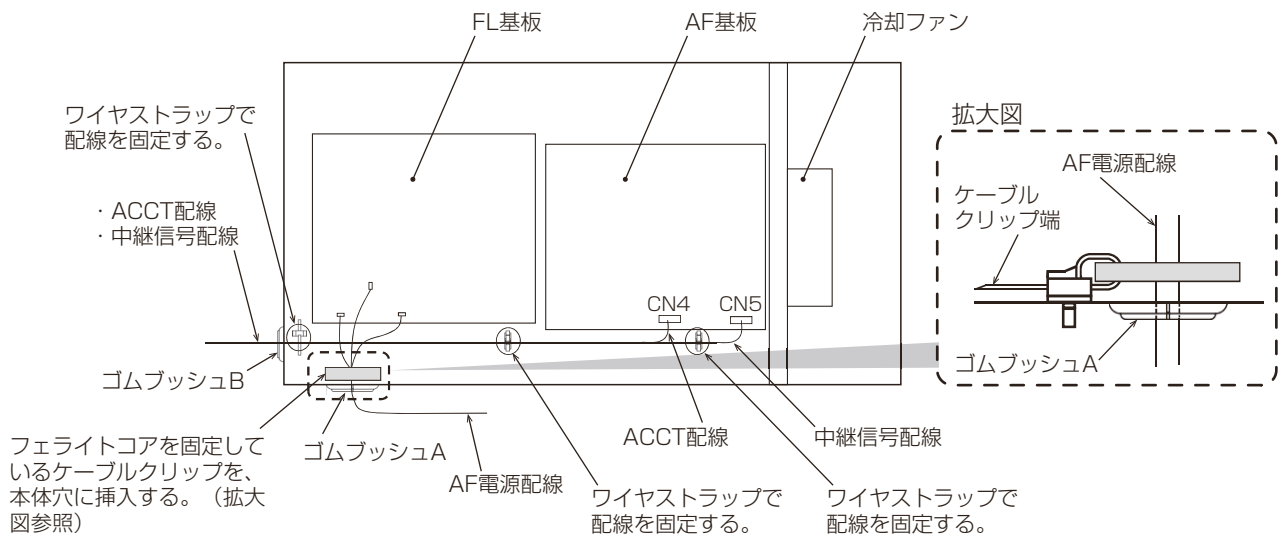
- [5]の手順2. で仮止めしたねじに引っ掛けるように設置し、取付ねじ(同梱部品D-6)で固定する(4か所)。



[7] アクティブフィルター本体に AF 電源配線、ACCT 配線、中継信号配線を接続する

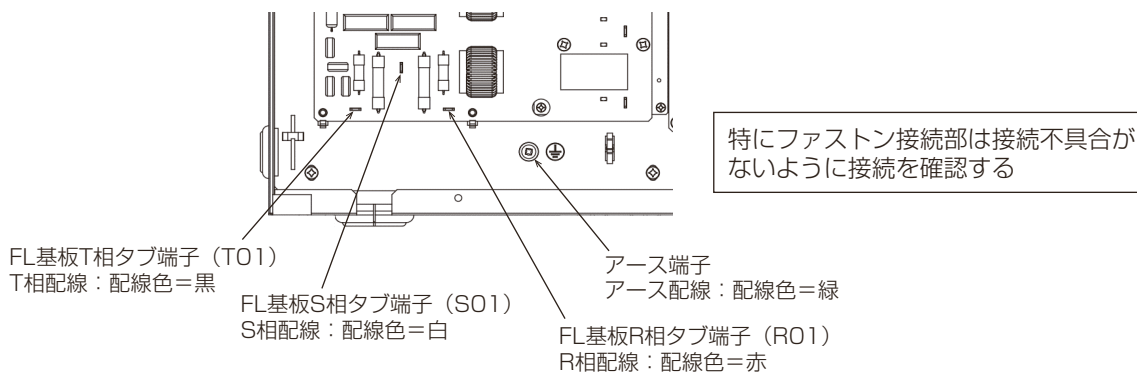
手順

- アクティブフィルター前カバー下側のねじ2本を取り外し、前カバーを開ける。
- AF電源配線をアクティブフィルター本体下側のゴムブッシュAの割れ目にはめ込み、フェライトコアに付属しているケーブルクリップを、本体の穴に挿入する。(拡大図参照)
 - このときケーブルクリップの端が向かって左側になるように取り付けてください。



- AF電源配線をFL基板上のタブ端子に接続する。

- アース配線は、所定のアース端子へねじ止めしてください。
- AF電源配線の相は、下図に示す配線色のとおり、FL基板上のタブ端子に接続する。
- ファストン端子部が奥までまっすぐ接続していることを確認してください。



4. ACCT 配線を、アクティブフィルター本体左側面のゴムブッシュ B から本体内部へ挿入し、AF 基板上のコネクタ (CN4) に接続する。
5. 中継信号配線を、アクティブフィルター本体左側面のゴムブッシュ B から本体内部へ挿入し、AF 基板上のコネクタ (CN5) に接続する。
6. ワイヤストラップを使用し、**手順 2.**の下図に示す場所で ACCT 配線・中継信号配線を結束する。

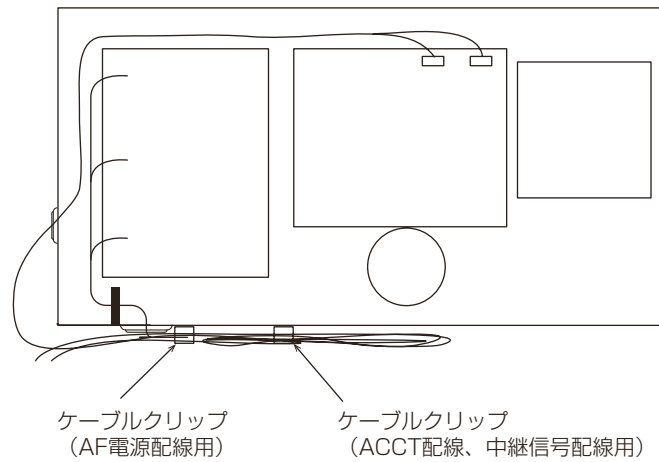
お願い

- ・ コネクタおよび配線に張力がかからないようにしてください。
- ・ 高温となる部分に接触しないように引き回してください。
- ・ コネクタが奥までまっすぐ接続していることを確認してください。

[8] 余剰配線を束ねて固定する

手順

1. 余剰配線を本体底面のケーブルクリップで結束し、以下のとおり固定する。
 - ・ ACCT 配線と中継信号配線は、本体左側面穴から下方向へ引き出す形で固定する。
 - ・ AF 電源配線は、本体下側面穴から右方向へ引き出す形で固定する。
 - ・ 配線接続部に張力がかからないように固定する。



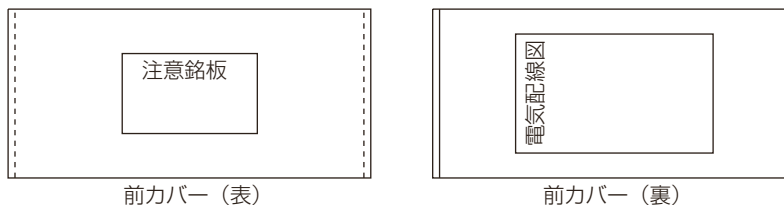
お願い

- ・ 「AF 電源配線」と「ACCT 配線、中継信号配線」は、本体底面のケーブルクリップで分離してください。配線を分離しないと、ノイズによる異常誤検知発生の原因になります。

[9] 前カバーに電気配線図銘板、注意銘板を貼り付け、元どおり取り付ける

手順

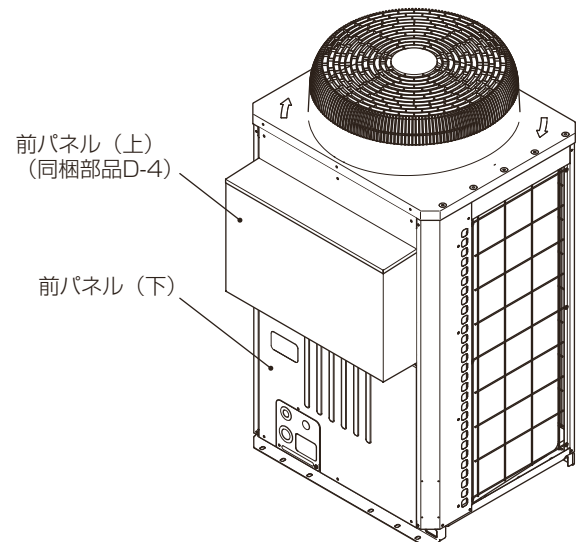
1. アクティブフィルター本体前カバーの表面中央に注意銘板 (同梱部品 D-14)、裏面中央に電気配線図銘板 (同梱部品 D-10) を貼り付ける。
2. 前カバーを元どおり取り付ける。
 - ・ 配線を挟み込まないようにしてください。



[10] 前パネル(下)、同梱の前パネル(上)を取り付ける

手順

1. 前パネル(下)を、元どおり取り付ける。
2. 前パネル(上) (同梱部品D-4)を取り付ける。
 - ・ 前パネルを取り付ける際、配線を挟み込まないようにしてください。



[11] 前パネル(上)に製品ラベルを貼り付ける

本別売部品には3種類の製品ラベルを同梱しています。
(リプレースマルチ、シティマルチ、設備PAC)

お願い

- ・ 製品形名を確認し、[1]で取り外した前パネル(上)の製品ラベルを参考に貼り付けてください。
- ・ 傾きやしわにならないように貼り付けてください。

(1) リプレースマルチ、シティマルチの場合

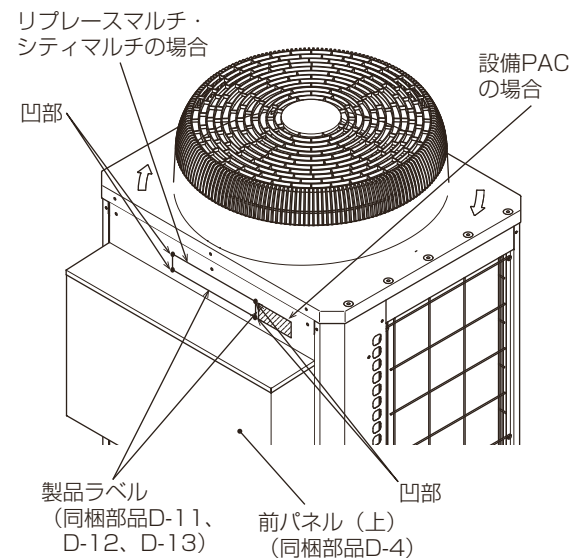
手順

1. 製品ラベルを前パネル(上) (同梱部品D-4)の右図の位置に貼り付ける。
 - ・ このときラベルの四隅がパネルの凹部にくるよう貼り付けてください。

(2) 設備PACの場合

手順

1. 製品ラベルを前パネル(上) (同梱部品D-4)の右図斜線部の位置に貼り付ける。
 - ・ このときラベル左辺がパネルの凹部にくるよう貼り付けてください。



4-3-1. コネクタ接続について

中継信号配線の室外ユニット制御基板側の3極コネクタ配線は、スノーセンサ／低騒音／デマンドの3種類の入力信号の内の1つを選択することができます。

どの信号部をアクティブフィルター用として使用するかにより、下表のように接続を変更してください。

なお、**アクティブフィルター制御用に使用した入力信号部の機能は使用できなくなります**が、残りの機能は従来どおり使用可能です。

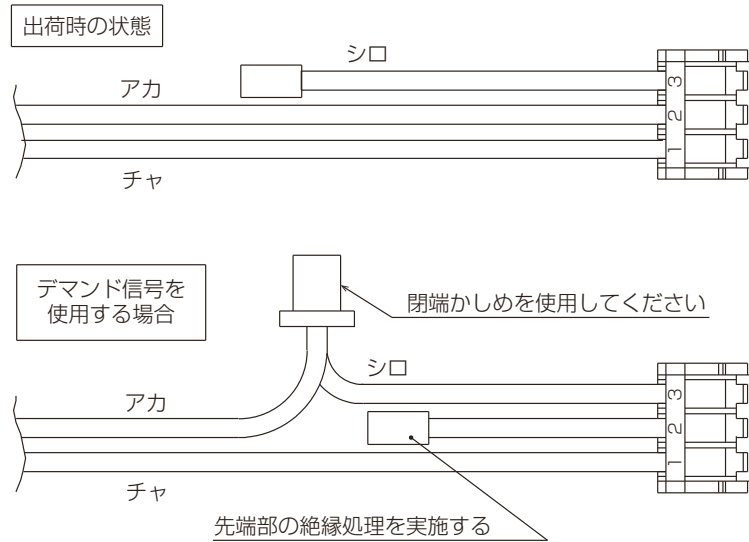
使用入力信号	コネクタ位置	使用ピン位置	ピン位置変更
スノーセンサ	CN3S	1-2ピン	なし
低騒音モード	CN3D	1-2ピン	なし
デマンド	CN3D	1-3ピン	2ピン→3ピン

デマンド入力信号を使用する際には、ピン位置の変更が必要です。ピン位置の変更は、配線のつなぎ替えで実施してください。(下図参照)

その際、配線の接続部および先端部の絶縁(テーピング)処理を実施してください。

また、CN51部の外部出力信号(圧縮機ON/OFF出力および異常出力)を従来の用途で使用する場合には、AF基板上的CN51が渡り配線構成となっています。室外ユニット制御基板上的CN51の代わりにAF基板上的CN51を使用してください。

[1] デマンド入力信号使用時：中継信号配線3極コネクタ配線つなぎ替え要領



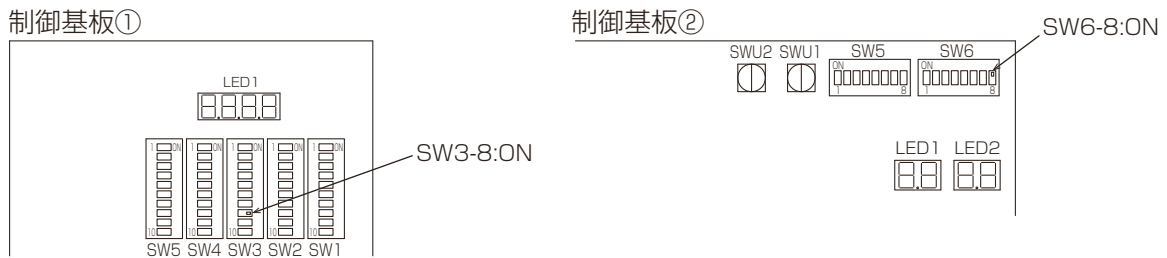
4-3-2. 設定について

室外ユニットにおける設定は、以下のようにしてください。

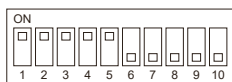
各部設定	スイッチ設定	CN51	CN3D(CN3S)
	下図参照	接続	接続

室外ユニット制御箱の制御基板には機種により2種類の基板があります。

下図に従って該当する基板のスイッチ(SW3-8またはSW6-8)をONに設定してください。



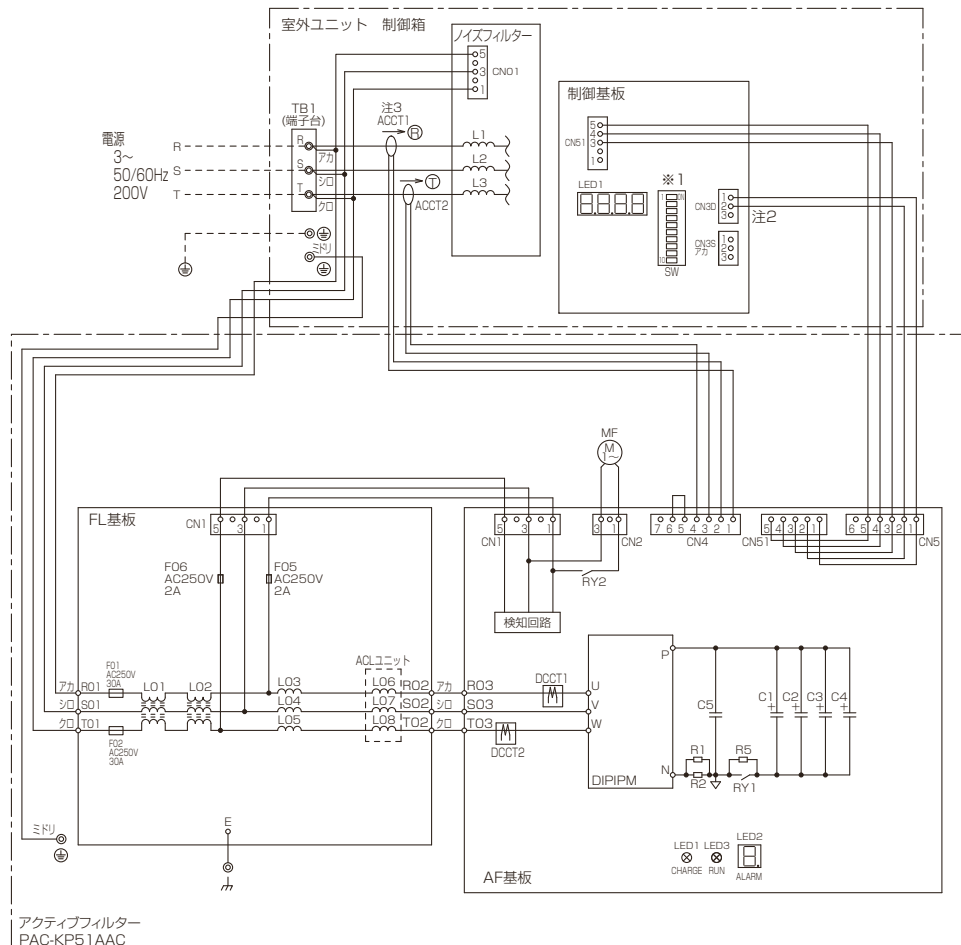
以上のように設定することにより、室外ユニットからの圧縮機ON/OFF信号に応じてアクティブフィルターをON/OFF制御するとともに、アクティブフィルターの検知する異常をリモコン表示できます。



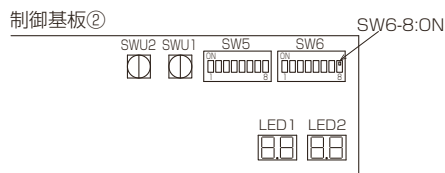
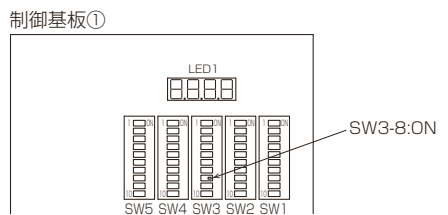
スイッチの見方例：左記スイッチは1～5がON、6～10がOFFを示します。

4-3-3. 電気配線図

アクティブフィルター内部電気配線図（室外ユニット・制御箱との接続含む）



※ 1 室外ユニット制御箱の制御基板には機種により2種類の基板があります。下図にしたがって該当する基板のスイッチ(SW3-8またはSW6-8)をONに設定してください。



※ 2 連係信号として、スノーセンサ/低騒音/デマンドを選択してください。

(デマンド信号を選択する場合は、3Pコネクターの2P線を3Pに変更してください。)

※ 3 ACCT (電流センサ) の相、挿入向きは図示のとおりです。

ノイズフィルターのコイルリード部に取り付けてください。

※ 4 破線は現地配線を示します。

※ 5 一点鎖線は制御箱境界を示します。

※ 6 製品内には多数の高電圧充電部がありますので、製品内の点検は電源を切り、10分以上放置後、IPMのP,N端子部の電圧がDC20V以下に下がっていることを確認してから作業してください。

※ 7 製品内には多数の高温部がありますので、電源遮断後も保護具を装着してください。

記号	名称
ACCT1	R相負荷電流センサ
ACCT2	T相負荷電流センサ
DCCT1	U相電流センサ
DCCT2	W相電流センサ
MF	送風機用電動機(放熱板)
Ⓧ	アース端子

AF基板上 LED表示(LED2)と内容

LED表示	内容
0	ACCTコネクタ(AF基板-CN4)抜け
1	電源過電圧
2	電源不足電圧
3	直流母線過電圧(S/W検出)
4	直流母線過電圧(H/W検出)
5	直流母線不足電圧
7	IPMエラー(過電流、制御電源異常)
8	欠相/逆相
9	ACCT誤配線
A	瞬時停電
C	過電流
F	周波数(同期)異常
H	IPMエラー(過熱)
P	パワーリレー-接点異常

5. 取付作業後の確認

取付作業が完了しましたら、下表に従ってもう一度点検してください。
不具合がありましたら必ず直してください。(機能が発揮できないばかりか、安全性が確保できません。)

5-1. 取付作業のチェックリスト

分類	内容	チェック欄
取付け	作業したねじなどの緩みはありませんか	
電気工事	配線接続の緩み、極性間違いなどはありませんか	
	電源接続の各相の相順は確認しましたか	
	電源配線が高温部に触れていませんか	
	アースは規定どおり正しく配線されていますか	
その他	「安全のために必ず守ること」を確認しましたか	

6. 試運転

試運転の手順は、アクティブフィルター本体 (PAC-KP51AAC) の「取扱説明書」を参照してください。
お客様立ち会いで試運転を行ってください。

7. アクティブフィルターの取外し方法

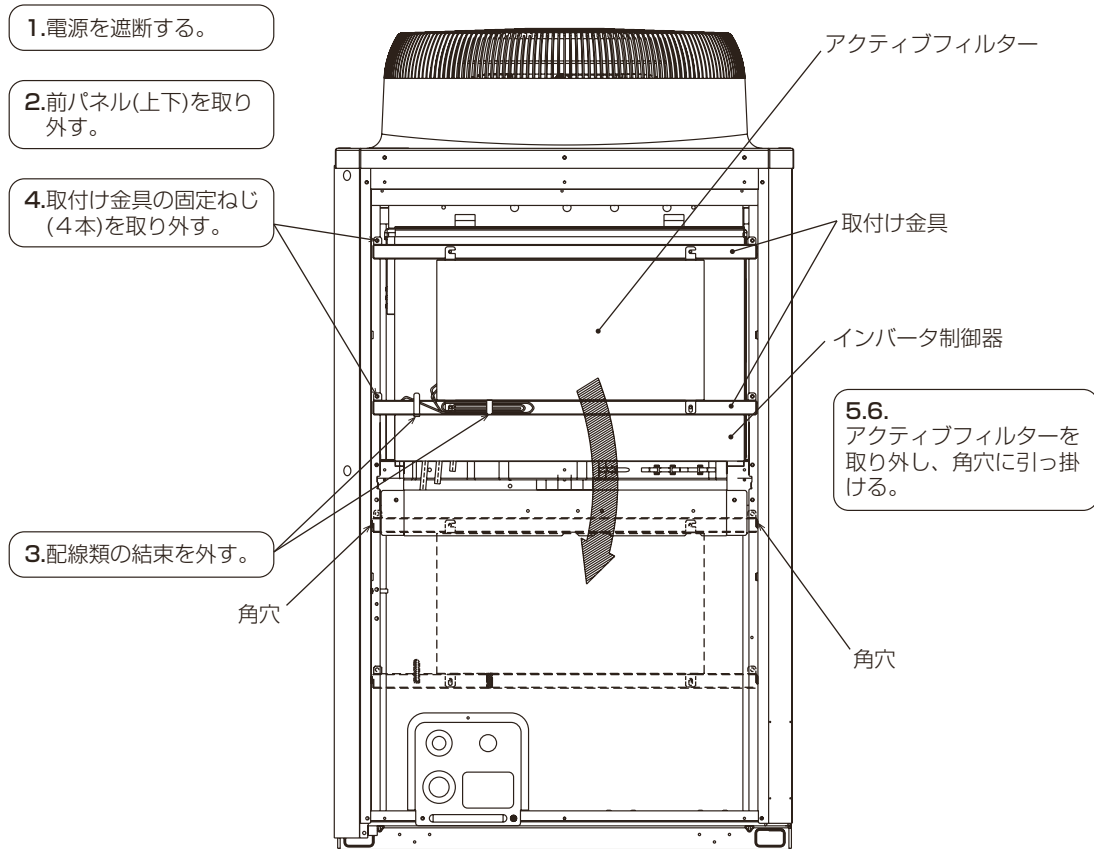
インバータ制御器のメンテナンス、サービスなどによりアクティブフィルターの取外しが必要になった場合は下記の手順にしたがって取り外してください。

お願い

- アクティブフィルター本体の質量は約 10kg あるため安定した作業姿勢で行ってください。
- アクティブフィルターを移動する際は、板金エッジへの接触や挟み込みによって配線が損傷しないようにしてください。

手順

1. 電源を遮断する。
2. 前パネル(上下)を取り外す。
3. アクティブフィルター下部および取付け金具に固定している配線の結束を外す。
4. 取付け金具の固定ねじ(4本)を取り外す。
5. アクティブフィルター(取付け金具付き)を少し持ち上げ手前に引き、アクティブフィルターをユニットから取り外す。
6. 手順5. で取り外したアクティブフィルターの取付け金具のツメをユニット下方の角穴に引っ掛ける。
7. メンテナンス作業完了後、アクティブフィルターを元どおり取り付け。
このとき配線も元どおりケーブルクリップで結束してください。



8. お客様への説明

- この取付説明書に従って、正しい使い方をご説明ください。とくに「安全のために必ず守ること」の項は、安全に関する重要な注意事項を記載していますので、必ず守るようにご説明ください。
- お使いになる方が不在の場合は、オーナー様・ゼネコン関係者様や建物の管理人様にご説明ください。
- この取付説明書は、取付け後お客様にお渡しください。
- お使いになる方が代わる場合は、この取付説明書（および保証書）を新しくお使いになる方にお渡しください。

MEMO

MEMO

ご不明な点がございましたら下記のお客様相談窓口にお問い合わせください。

三菱電機冷熱相談センター

0037-80-2224(フリーボイス)/073-427-2224(携帯電話対応)

FAX(365日・24時間受付)

0037(80)2229(フリーボイス)・073(428)-2229(通常FAX)

三菱電機株式会社

本社 〒100-8310 東京都千代田区丸の内2-7-3 (東京ビル)
冷熱システム製作所 〒640-8686 和歌山市手平6-5-66

2021年1月作成

WT09705X02